

日常生活と放射線



私たちは
毎日の暮らしの中で
いろいろな放射線を受け
ている



約6000mGy 永久不妊(精巣)^{※1} 約3000mGy 永久不妊(卵巣)^{※1}

約4000mGy 一時脱毛^{※1}

100ミリシーベルト以下

被ばくによる発がんリスクに統計的な差はない

0.5~613.2 大地からの自然放射線〔ラザール(イラン)、ケラ、チェンナイ(インド)〕
(住民の方の健康への影響は確認されていません。)

2.4 1人当たりの自然放射線(年間)

(世界平均)

2.1 1人当たりの自然放射線(年間)

(日本平均)

0.008 航空機利用

0.01(年間)
クリアランスレベル^{※3}

0.002~0.01 歯科撮影

0.001未満 原子力発電所からの放射性物質放出実績(年間)

放射線を受けた量(ミリシーベルト)

10000

1000

100

10

1

0.1

0.01

0.001

100~6200mGy
心臓カテーテル(皮ふ)

500mGy 白内障(視力障害)^{※1}

500mGy 造血機能の低下(骨髄)^{※1}

250 緊急時の発電所などで働く
作業員に対する線量限度^{※5}

50 発電所などで働く作業員に対する線量限度(年間)^{※4}

5~30 CT(1回)

2~20 PET検査(1回)

3.0 胃のX線検診(1回)

1.0 一般公衆の線量限度(医療は除く)(年間)

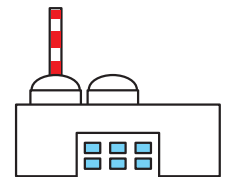
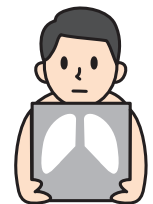
0.06 胸のエックス線集団検診(1回)

0.05 原子力発電所周辺の線量目標値(年間)

0.022 再処理工場(六ヶ所村)の線量評価値(年間)

0.002~0.01 歯科撮影

0.001未満 原子力発電所からの放射性物質放出実績(年間)



※1 放射線障害については、各部位が均等に吸収線量1ミリグレイのガンマ線を全身に受けた場合、実効線量1ミリシーベルトに相当するものとして表記

※2 空気中に存在する天然の放射性物質

※3 自然界の放射線レベルと比較して十分小さく、安全上放射性物質として扱う必要のない放射線の量

※4 発電所などで働く作業員に対する線量は5年間につき100ミリシーベルトかつ1年間につき50ミリシーベルトを超えない

※5 電離放射線障害防止規制等の改正により、緊急時の放射線を取り扱う作業員の緊急作業従事期間中の線量限度を2016年4月より250mSvに引き上げ